

特別支援学級 国語科学習指導案

日時 令和5年6月30日(金) 1校時
場所 厚岸町立真龍小学校たんぼぼ教室
児童 知的 1年生 1名
授業者 沼口 夕美

1 町研研究主題との関連

【研究主題】地域・社会に生きてはたらく力を育む厚岸町の教育
～育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善～



【特別支援教育部会 研究テーマ】

「児童生徒個々の教育的ニーズに応じた支援の在り方や学校間交流および共同学習の推進についての研究」



【本時でねらいとする資質・能力について】

自分で学び続ける力と、文字や言葉を用いてのコミュニケーション能力の素地を培う。

これまで、絵カードを使い物の名前が理解できるよう、絵を見せながら教師が発語し、その絵カードを取るというカルタ遊びを繰り返してきたその後、指導者の口元をじっくり見ながら真似てみようとする様子が見られてきたので、発語についても指導するようになってきた。言葉に興味をもてるようになってきたので、物の名前と文字の一致についても取り組み、書字については、自分の名前から始め、理解している名前については書けるようになってきたので、名字についても指導を始めている。



【児童・生徒の実態】

自分のしたいこと・嫌なことなどの意思はあるが、発語がないため、相手に自分の意思が伝わらず癇癢を起こすことが多い。そのため、入学当初から絵カードや写真を指差しすることで意思表示ができるようになってきたが、言葉に関心をもつようになってきたため、言葉の獲得と発語のトレーニングを開始した。

また、ルーティン行動が得意なことや活動の見通しがもてると安心することから、本時で使うプリントや用具の写真などを、使う順番に黒板に貼り、一つずつ自分で取りに行き、学習が終わると黒板に戻すという学習スタイルにしている。こうすることで、活動の見通しがもて、癇癢を起こさず学習に取り組むことができるようになってきた。また、活動ごとに離席できることも、飽きずに取り組める要因と考えている。

2 本時にかかわって

(1) 本時の目標

言葉や文字に関心をもつ。

(2) 展開

過程	学習活動	教師の働きかけ	評価規準（評価方法）
導入 （分）	<ul style="list-style-type: none"> ○線のなぞりがきをする。 ○名前の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「かくん」の声かけで、情性で運筆せず、しっかりおれるようにする。 ○文字と音が一致するよう、ゆっくり声かけをしながら進める。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">物の名前が言えるようになろう</div>			
展開 （分）	<ul style="list-style-type: none"> ○果物・野菜カルタをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・言われた言葉をよく聞いて、絵カードを取る。 ・指導者の口元をよく見て、口形を真似て話す。 ○動物の名前を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見ながら、動物の名前を覚えるとともに、声に出す。 ○言葉づくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見て、物の名前をひらがな積み木で作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「まいります」の言葉を合図に、次の取り札に切り替えるようにする。 ○真似して言えるように、口を大きく動かし、ゆっくり話す。 ○苦手な音については、正しい音が耳に残るよう、繰り返し話す。 ○カード裏に書かれた文字を見ることで、音だけではなく、文字を見ながら取り組めるようにする。 ○色や列などを手がかりに見つけられるように声をかける。 ○文字に合わせて、音を出すことで、文字と音を一致させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ものの名前を理解している。（カルタ・発語） ○動物の名前を理解し、文字と音が一致している。（ひらがな積み木・発言）
まとめ （5）	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 学習したプリントを集め、ファイルに閉じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スタンプの向きとプリントの向きを合わせて押すように声をかける。 	